

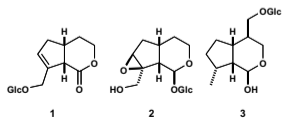
ウイグル天然薬物カンカニクジュヨウ (*Cistanche tubulosa*) 新鮮肉質茎の新規イリドイド成分と抗 TNF- α 作用

森川 敏生¹, 二宮 清文¹, 潘 英尼^{1,2}, 〇居村 克弥¹, 米倉 央¹, 村岡 修¹, 袁 丹², 賈 曉光³, 吉川 雅之¹(¹近畿大・薬総研, ²瀋陽薬大, ³新疆中薬民族薬研究研究所)

【目的】ハマウツボ科植物カンカニクジュヨウ (*Cistanche tubulosa*) はベニヤナギの根部に寄生する植物で、主に中国新疆ウイグル自治区やパキスタンなどの砂漠地帯に自生している植物である。我々の研究室では、これまでに乾燥カンカニクジュヨウの含有成分を精査し、新規イリドイド配糖体 kankanosides A-E をはじめ、約 40 種の含有成分を明らかにしている。^{1,2)} しかし、食用には未加工である新鮮カンカニクジュヨウが用いられており、その活性成分についての詳細な研究がほとんどなされていなかった。そこで、カンカニクジュヨウ新鮮肉質茎を入手し、これまでに 7 種の新規フェニルエタノイド配糖体を単離・構造決定している。³⁾ 今回、更に含有成分を精査した。

【実験・結果】カンカニクジュヨウ (*C. tubulosa*) 新鮮肉質茎を MeOH にて熱時抽出し、得られた MeOH 抽出エキス (生薬から 8.36 %) を得た。得られた MeOH 抽出エキスを Diaion HP-20 に付し、水および MeOH で順次溶出させて、水および MeOH 溶出部を得た。MeOH 溶出部を順相シリカゲル、逆相 ODS クロマトグラフィーおよび HPLC を用いて繰り返し分離精製し、計 35 種の既知化合物を単離・同定するとともに 3 種の新規イリドイド成分 (1-3) などを単離・構造決定した。更に含有成分について、L929 細胞を用いた TNF- α 誘発細胞傷害抑制活性について検討した。

¹⁾ *Chem. Pharm. Bull.*, **54**, 669—675 (2006); ²⁾ *Bioorg. Med. Chem.*, **14**, 7468—7475 (2006); ³⁾ 第 58 回日本薬学会近畿支部総会・大会講演要旨集, 神戸, 2008, p. 119.



Glc: β -D-glucopyranosyl